

平成22年度 経営協議会学外委員からの意見等に対する本学の対応状況

番号	議題名等	学外委員等からの意見	本学の対応
1	平成22年度学内予算配分(案)について	本来前年度中に予算配分を行うべきであり、次年度以降は適切な時期に予算編成していただきたい。	平成23年度学内予算配分については、文科省から運営費交付金等の内示後、1月に予算編成方針及び予算枠を提示し、3月中に予算編成を行った。
2	平成22年3月卒業生・修了者の進路状況について	卒業後の就職できない学生への対応及び卒業単位を取った後に大学に残れる方法はあるのか(卒業してしまうと就職の際に新卒者扱いとならず、就職に不利が生じる現状がある)	現在、本学では卒業単位修得後に大学に在籍できる制度はないが、毎年卒業式前に、医・歯学部を除く卒業・修了生全員に就職支援センターからの案内を配布し、卒業後も就職相談や求人の紹介など、在学中と同様の支援を受けられることをPRしている。さらに5月1日付け調査時点の未就職卒業生には、求職登録を勧める文書をセンターから郵送し、求職登録者には随時メールで求人情報等を送っている。また卒業後3年以内は新卒扱いにという国の働きかけもあり、既卒者に門戸を開く企業も最近増加している。
3	平成21事業年度に係る実績報告及び第1期中期目標期間に係る確定評価について	男女共同参画の基本理念を教職員・学生へ啓発し、具体的な取組を推進してほしい。	意識啓発の取り組みとして、平成22年11月に男女共同参画シンポジウムを開催し、教職員・学生のほか学外者を含め約230名の参加があった。そのほかの主な取り組みとして、①オープンキャンパス企画“muse 篤姫”「郷中Cafe『夢・未来』」～女子高校生と女子大学院生との交流会～を実施(8月)、②共通教育科目「男女共同参画とキャリアデザイン」の開講(後期)、③学長と女性研究者との懇談会の開催(2月)、④Newsletterの創刊(3月)、⑤相談体制の構築(3月)が挙げられる。また、11月には全学の常勤職員に対する男女共同参画に関する意識調査を実施(回収率68.2%)したほか、1月には女性研究者向け教育研究支援等に関するアンケート調査(回収率61.9%)を実施し、支援体制の充実に向けた基礎データを収集した。これらの調査結果等をもとに、短期(3年)及び長期(10年)行動計画を策定し、次年度以降男女共同参画に関する意識啓発及び教職員のワーク・ライフ・バランス支援の推進並びに次世代女性研究者育成支援を行っていく予定である。